

## 皮膚病ムラージュ展示会

於：仙台国際会議場展示棟 特設ブース

日 時：4月28日(土) 9:00～18:35  
4月29日(日) 9:00～13:30

入場料：無料(学会参加者に限りませ)

皮膚科学の分野では、大正から昭和30年代半ばまで、症状の記録、学生の教育にロウ製の皮膚病模型が作製され利用されてきました。

東京帝国大学で初代の皮膚病徴毒学講座教授であった土肥慶蔵先生は、今回、当学会に寄贈される「皮膚科学」を残しておられます。同時に日本にムラージュの製法技術を伝えたのも土肥先生でした。オーストリアのウィーン大学Kaposi先生のもとに留学していた土肥慶蔵先生がその技術を習得し、帰国してから、ムラージュ技術者の伊藤有氏とともに、日本での皮膚病ムラージュの製法を確立しています。

その技術は当時の世界でも最高水準にあったとされ、本家のヨーロッパでの博覧会でも多くの受賞歴がありました。伊藤有氏の弟子たちが日本各地に赴き、最盛期には日本全国の大学に数千個のムラージュが存在していたようです。その後、皮膚症状がカラー写真で残せるようになった事から、ムラージュ制作は衰退の途をたどり、ムラージュ自体もロウ製で劣化、破損のため廃棄処分になったものがほとんどです。

今回、展示されるものは、北海道大学のムラージュ製作者・南条議雄氏によるものです。南条氏は、伊藤有氏の門下生であり、その後継者として指名されたときれるほど優秀であったと記録されています。この度、北海道大学皮膚科学教室ならびに北海道大学総合博物館のご好意により、收藏の門外不出のムラージュを数点展示できる運びとなりました。

皮膚科学を学んでいる、皮膚科医を志す先生方には、本物に触れていただける大変貴重な機会になると思います。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

### 参考文献

中村秀樹先生 清水宏先生「ムラージュ(ロウ製皮膚病模型)」北海道医学雑誌82(4), 261-266. 2007  
石原あえか先生「日本のムラージュ」青弓者2018



No.143  
尋常性狼瘡



No.31 天然瘡